

史 跡
杉 塚 廃 寺

史跡整備報告書

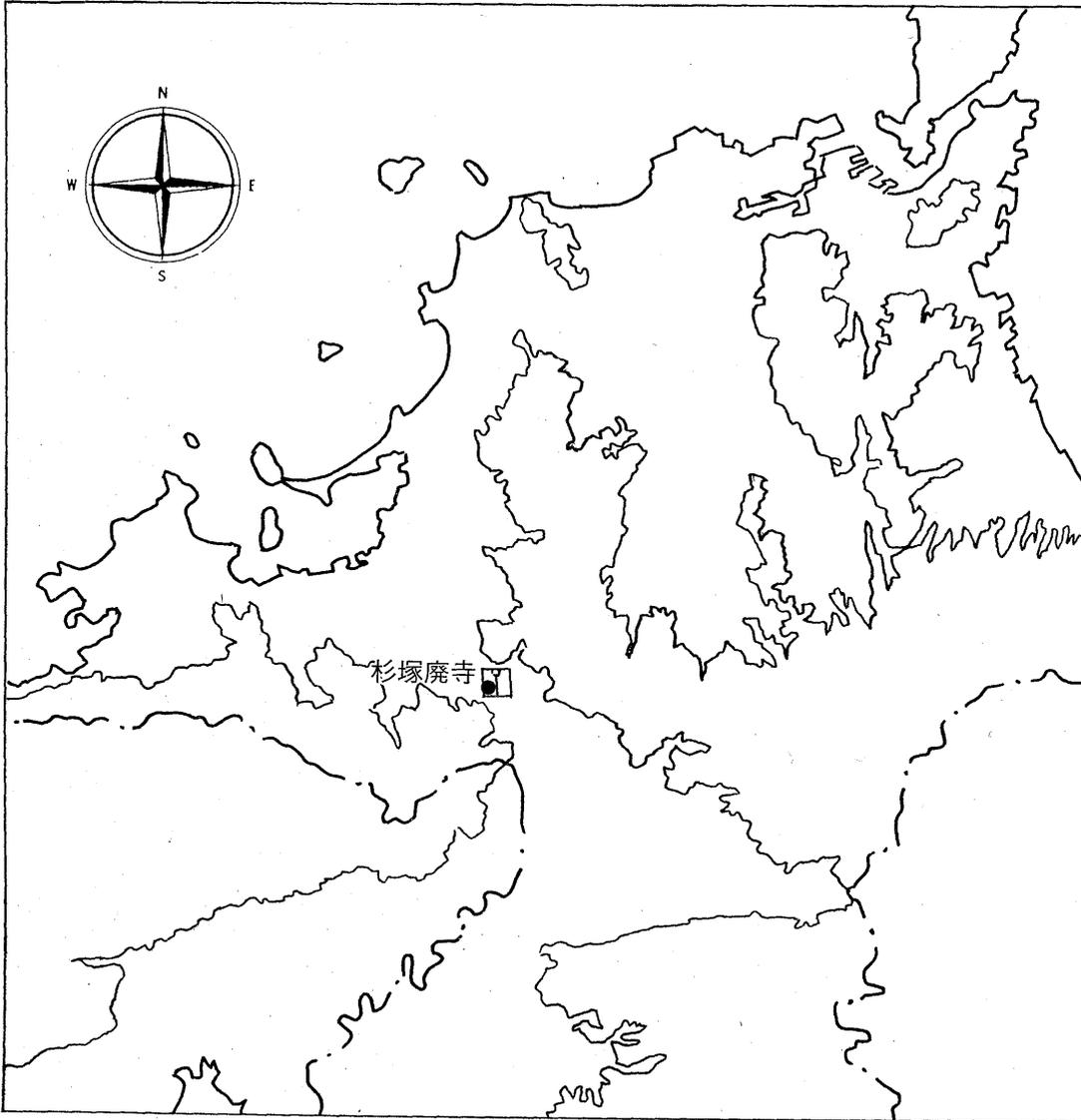
筑紫野市文化財調査報告書

第63集

2000

筑紫野市教育委員会

史跡
すぎ つか はい じ
杉塚廃寺



序

東西から山々が迫り、その間に狭長な平野が延びる筑紫野市は福岡平野と筑紫平野を結び、太古から交通の要衝としての役割を担ってまいりました。奈良時代、この平野には太宰府市にある大宰府政庁から続く都市があったといわれ、市の南側の基山には、この大宰府を守るために基肆城が築かれ、現在は国の特別史跡となっています。また、基山の山裾には延喜式に名を残す「筑紫神社」があります。発掘調査では鴻臚館から大宰府に向かう官道や、大宰府から豊後の方へ向かう官道、また朱雀大路と考えられる遺構などが発見されました。また万葉集に詠まれた蘆城駅家と推定される遺跡も発見されています。このように筑紫野市と太宰府市は奈良時代には一体として発展しております。江戸時代は長崎街道、薩摩街道、日田街道が通り筑前六宿に数えられる山家宿、原田宿の他、日田街道から大宰府への分岐に二日市宿が置かれていました。そして今日、JR九州鹿児島本線、筑豊本線、西鉄大牟田線、九州縦貫自動車道、国道3号線、200号線、386号線、鳥栖・筑紫野有料道路の他主要地方道が本市を通っています。ここに9万人を超える人々の暮らしがあり、その数は今も増え続けています。

福岡が日本におけるアジアに開かれた門戸と位置づけられるなら、筑紫野市は九州におけるクロスロードと言えましょう。このような歴史に育まれた本市には、たいへん多くの遺跡があります。

福岡市へ鉄道で15分足らずの距離にある本市は、様々な開発が行われ、文化財に大きな影響を及ぼしております。現在に生きる人々の営みの中で、後世に伝えていくべき義務を負う文化財を保護するため、さらに努力を重ねていく所存でございます。

平成12年3月31日

筑紫野市教育委員会

教育長 永 淵 正 敏

例 言

1. 本書は杉塚廃寺史跡整備事業に関する報告書である。
2. この事業は筑紫野市教育委員会が実施した。
3. 平成9・10年度の整備事業は、地域総合整備事業債「地域文化財保全事業」を活用した。
4. 平成8年度の確認調査は藤尾薫（筑紫野市教育委員会社会教育課技師／現ふるさと館ちくしの）が行った。
5. 本書の執筆はⅠ～Ⅲ、Ⅴを奥村俊久が、Ⅳを田中豊が行い、編集は奥村が行った。

目 次

	頁
Ⅰ 整備に至る経過	1
Ⅱ 位置と環境	1
Ⅲ 杉塚廃寺の調査	4
Ⅳ 史跡整備の実施	7
1. 基本計画	7
2. 保存整備の実施	19
Ⅴ まとめ	36

I 整備に至る経過

杉塚廃寺は筑前国続風土記にもその記載があり、地元でも「无動寺」、「天動寺」の跡と言
い伝えられ、古くから礎石の存在が知られていた。昭和48年4月、市道側溝工事に伴う緊急調
査^{註1}で礎石、掘り込み事業による基壇の一部と瓦溜り、雨落ち溝状遺構が検出されている。昭和
54年、この地点から北へ50mほど寄ったところで礎石と基壇の一部が残っている地点の確認調
査^{註2}を実施した。その結果、基壇の一部と9個の礎石が確認され、東西棟の建物の一部であるこ
とが明らかとなった。この部分は平成4年4月30日付けで、949.82㎡を筑紫野市史跡として指
定するとともに、同年指定地の一部844.01㎡を筑紫野市開発公社により先行取得した。平成8
年度、整備に向け、工事の影響が強いと考えられる部分の確認調査を行うとともに、基本設計
を実施した。平成9年度、整備の実設計を行うとともに、先行取得地856.80㎡の買収を行っ
た。この土地には指定地の一部を所有する地元の方からの寄付（一部交換）も含まれる。平成
10年度は公園出入口部分の東側109.82㎡を買収し、10月21日から翌年2月25日を工期として工
事を実施した。

1. 事業面積

966.62㎡

2. 事業費（平成9・10年度）

- ① 事業費総額 79,029千円
- ② 内訳
 - 用地取得費 51,273千円
 - 設計監理費 2,766千円
 - 工事請負費 24,990千円

3. 工 事

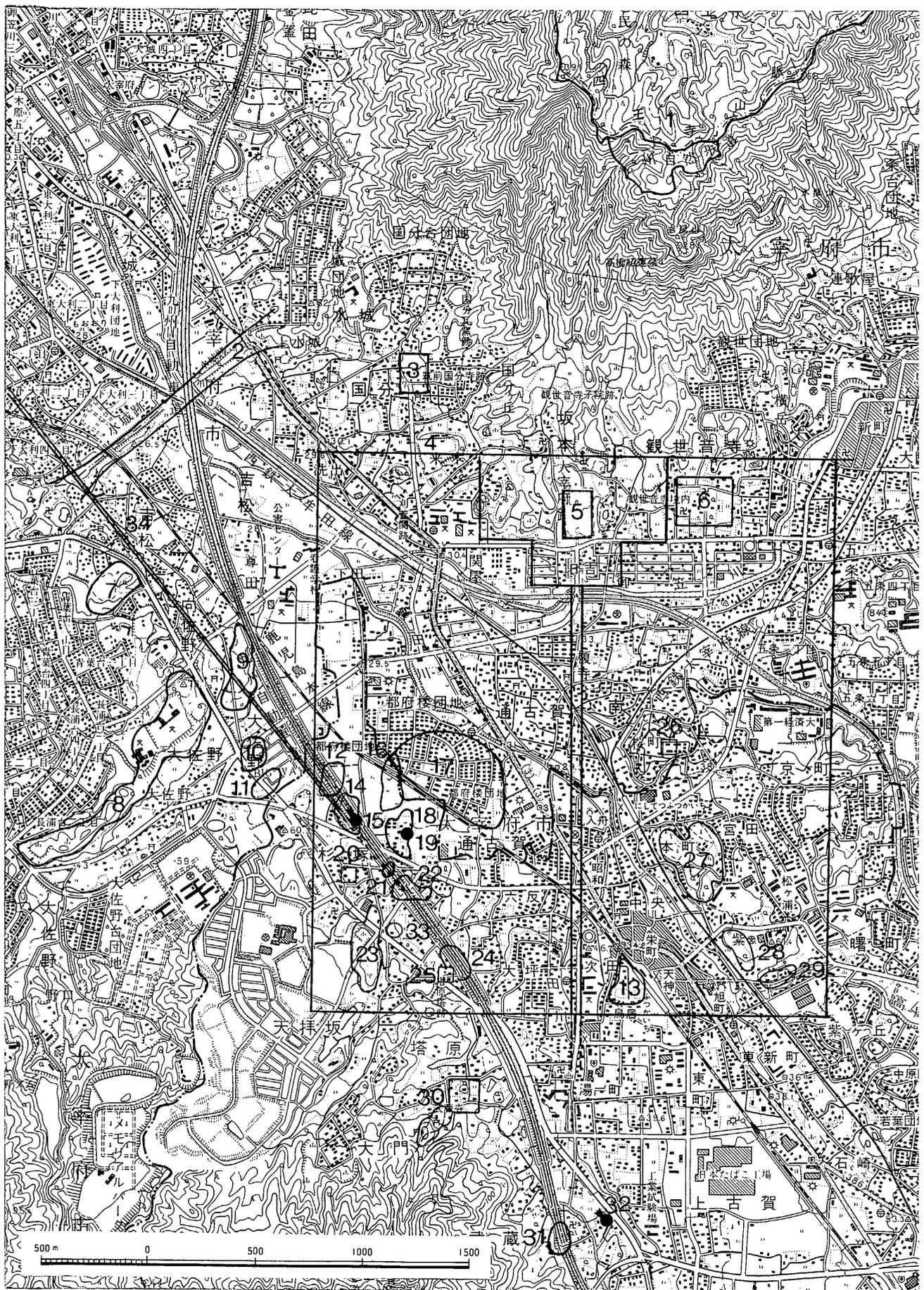
- ① 施 主 筑紫野市
 - ・監督者 奥村俊久（筑紫野市教育委員会社会教育課文化財担当）
- ② 設計監理 （株）シーマコンサルタント
 - ・管理技術者 田中 豊
- ③ 施 工 矢ヶ部石材
 - ・現場代理人 矢ヶ部清満

註

註1	九州縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告Ⅳ	1974	福岡県教育委員会
註2	杉塚廃寺 筑紫野市文化財調査報告書第4集	1979	筑紫野市教育委員会

II 位置と環境

筑紫野市は福岡市と久留米市のほぼ中間に位置する。市の東西から三群山塊、脊振山塊が迫
り、その間に狭長な平野部を有す。この平野部は福岡平野と筑紫平野を潤す河川の分水嶺となっ
ている。市の北部は太宰府市と境を接し、推定大宰府条坊^{註1}の南側半分は当市の市域に入る。ま
た、市の南部は、佐賀県基山町との境となる基山に基肆城があり、大宰府に防衛ラインとして



第1図 調査地点周辺遺跡分布図 (縮尺 1/25,000)

1. 大野城跡
2. 水城跡
3. 筑前国分寺跡
4. 大宰府跡
5. 大宰府政庁跡
6. 観世音寺
7. 篠振遺跡
8. 宮ノ本遺跡
9. 前田遺跡
10. フケ遺跡
11. 尾崎遺跡
12. 井ノ尻遺跡
13. 堀池遺跡
14. 剣塚遺跡
15. 剣塚1号墳
16. 大坪遺跡
17. 市ノ上遺跡
18. 大門遺跡
19. 埴安神社古墳
20. 杉塚廃寺
21. 前田遺跡
22. 唐人塚遺跡
23. 脇田遺跡
24. 塔原遺跡
25. 塔原廃寺
26. 般若寺跡
27. 峯畑遺跡
28. 通り浦遺跡
29. 五穀神遺跡
30. 武蔵寺跡
31. 八隈古墳群
32. 原口古墳
33. 脇田古墳群
34. 水城西門ルート官道

の羅城を想定すれば筑紫野市がその中心部に位置する。また御笠地区遺跡^{註2}A地点では万葉集に詠われた蘆城駅家と想定される遺構^{註3}が発見され、また大宰府条坊第99次調査では大宰府西門ルートと呼ばれる官道が、岡田地区遺跡群^{註4}からは大宰府から豊後方面へ向かうと考えられる官道が発見され、筑紫野市内からの大宰府条坊関連遺構の発見も少なくない。また、岡田地区遺跡群の後背地にある宮地岳からは古代山城と考えられる遺構が発見された。

杉塚廃寺は推定大宰府条坊右郭十九条十・十一坊に位置し、脊振山塊の東端に位置する天拝山から北に延びる尾根の裾に位置する。南側500mには塔原廃寺があり、大宰府条坊第99次調査で検出された官道を延長すると、杉塚廃寺の東側隣を通る。

註

註1	「大宰府都城の研究」鏡山猛	1928	
註2	「御笠地区遺跡」筑紫野市文化財調査報告書第15集	1986	筑紫野市教育委員会
註3	「大宰府条坊跡第99次発掘調査」筑紫野市文化財調査報告書第52集	1997	筑紫野市教育委員会
註4	「岡田地区遺跡群Ⅱ」筑紫野市文化財調査報告書第56集	1998	筑紫野市教育委員会

Ⅲ 杉塚廃寺の調査

今回の整備地点は昭和54年に確認調査が実施され基壇の一部と礎石が確認された。さらに、整備事業に伴ない平成8年にJ T.、K T.、L T.の3本のトレンチを設定調査した。新たに設定したトレンチからは60～90cm程で締まった砂層となっており、建物に関する遺構は確認されなかった。しかし、整備のための表土除去中に隣地境界部から礎石1基が検出された。この礎石は南側庇のものと考えられた。このことから母屋は桁行2間で柱間寸法は9尺(2.7m)、梁行は3間しか確認していないが柱間寸法は12尺(3.6m)で、柱間9尺の庇が廻ると思われる。

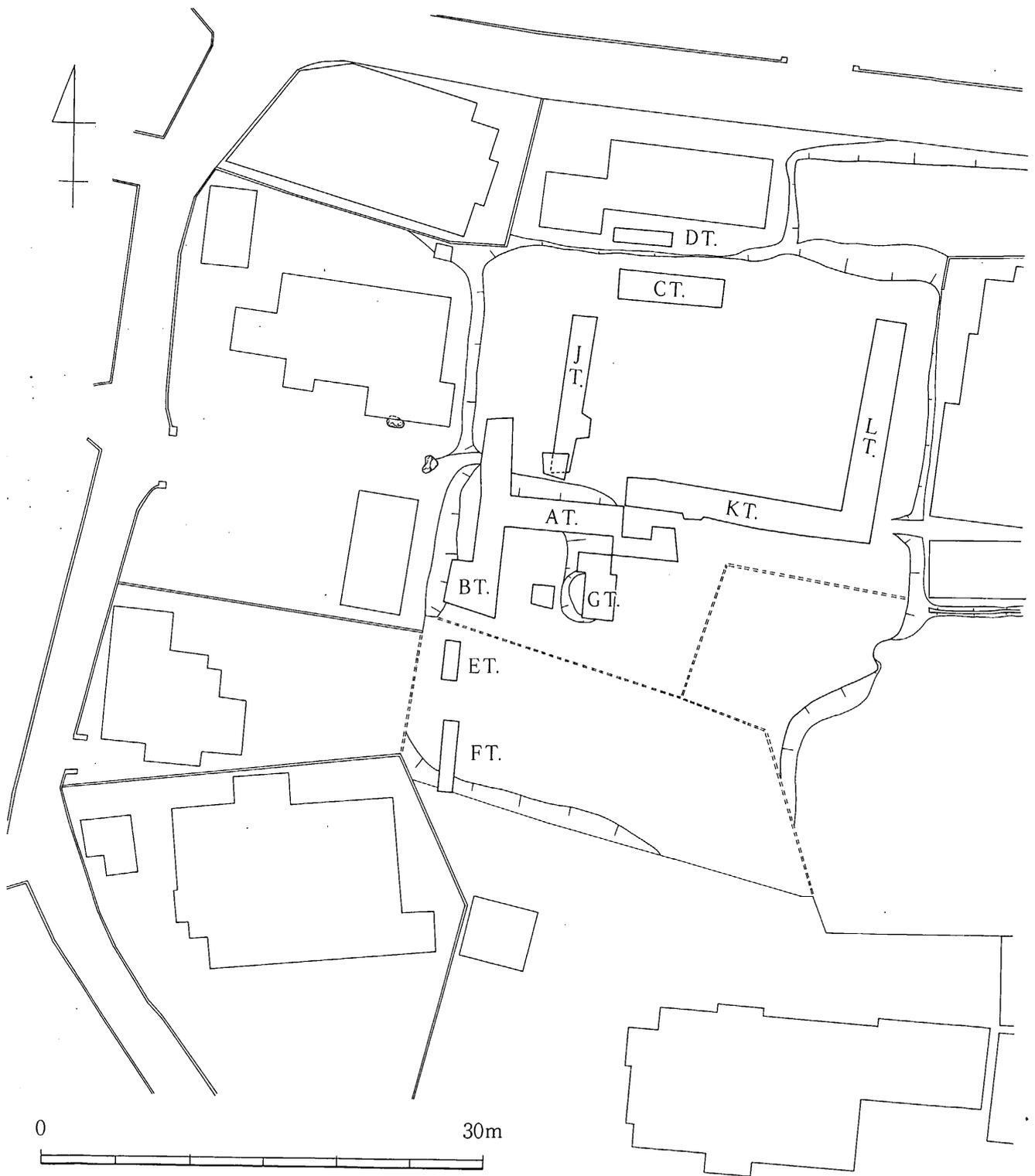
出土遺物

平成9年の確認調査、及び工事中に新たに出土した遺物は瓦片がパンケース3箱、土器片等が1/5程度である。主なものとして、瓦は八弁単弁蓮華文軒丸瓦、「佐」銘の平瓦片がある。

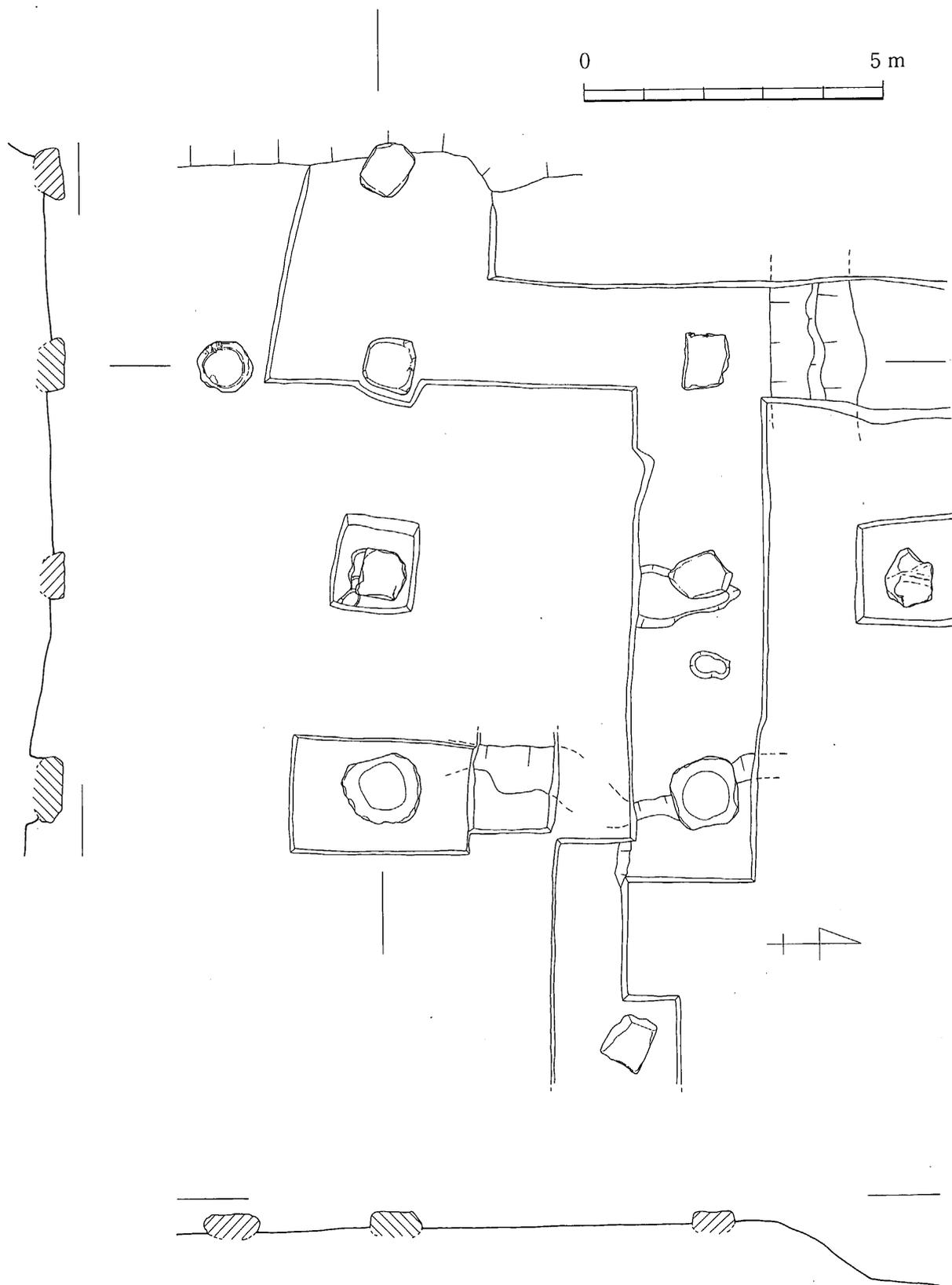
整備について

整備に当っては事業規模が小規模なこと、また事前の確認調査が既に実施されていることから、個別の整備指導委員会を設置せず、筑紫野市文化財保護審議会において審議願った。平成9年11月13日の委員会で総合的に審議いただき、以後は史跡・考古部門の小田富士雄委員、石松好雄委員に随時ご指導賜った。

今回の整備で最も重要な位置を占める基壇の復元は、基壇の削平、流失が著しく本来の形状が明らかでない。また基壇化粧に関する遺物も全く出土しておらず、さらに検出された9個の礎石も原位置を保つものは5個にとどまる。遺構の南側は民家の裏庭となり、西側は大きく削られ、アパートが建っている。今回、整備する遺構部分は、残存部の基壇を復元し、範囲は礎石の端から1mまでとした。そこから一割勾配の法をとり、芝生を張って、基壇の立ち上り部分のイメージを薄めた。しかし、工事中に新たな礎石が出土し、建物の桁方向が推定されたことから、急きょ設計変更を行った。当初設計に北側庇部分の復元を追加し、基壇部分が北側に延びることとなった。



第3図 トレンチ配置図 (縮尺 1/400)



第4図 遺構実測図 (縮尺1/100)

IV 史跡整備の実施

1. 基本計画

◆整備の基本的な考え方

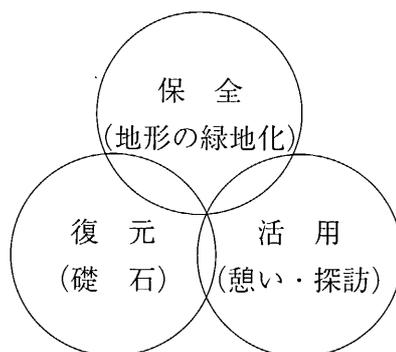
郷土の歴史への理解を深め、文化遺産を新たな視点から据え直し、保存・継承して行く素材としての整備を行う。

筑紫野市、太宰府市周辺には奈良、平安時代を中心とする多くの史跡が点在する。また、筑紫野市二日市地区にも本遺跡をはじめ、国指定史跡「塔原塔跡」、県指定史跡「武蔵寺跡」、市指定史跡「大宰府条坊朱雀大路－立明寺地区－」、市指定有形文化財「古石塔」(武蔵寺境内)、「自然石梵字板碑」(武蔵寺境内)、市指定天然記念物「長者の藤」(武蔵寺境内)、「二日市八幡宮神木の公孫樹」や未指定である「植安神社古墳」等がある。これを広域的な学習の場として活用し、地域住民が地域固有の文化財に対する理解を深めるとともに、地域外の人々とふれあい、郷土文化を再発見し、活用できる場を目指す。

◆保存の整備方針

- ・ 保存整備は史跡の保全を重視し、遺構を壊さないよう留意する。
- ・ 地域住民及び見学者が、歴史的な大宰府跡の一部としての廃寺の位置付けを正しく学習し、後世に語り継がれるようにする。
- ・ 公園緑地化することにより地域住民が憩いの場として利用できるようにする。
- ・ 施設計画は古代のイメージに即し素材及び色相等に留意する。
- ・ 周辺環境は市街地で宅地化が進んでいるので植栽等で目隠し分離する。
- ・ 整備にあたり高齢者や身障者への配慮を十分に行う。

基本概念図

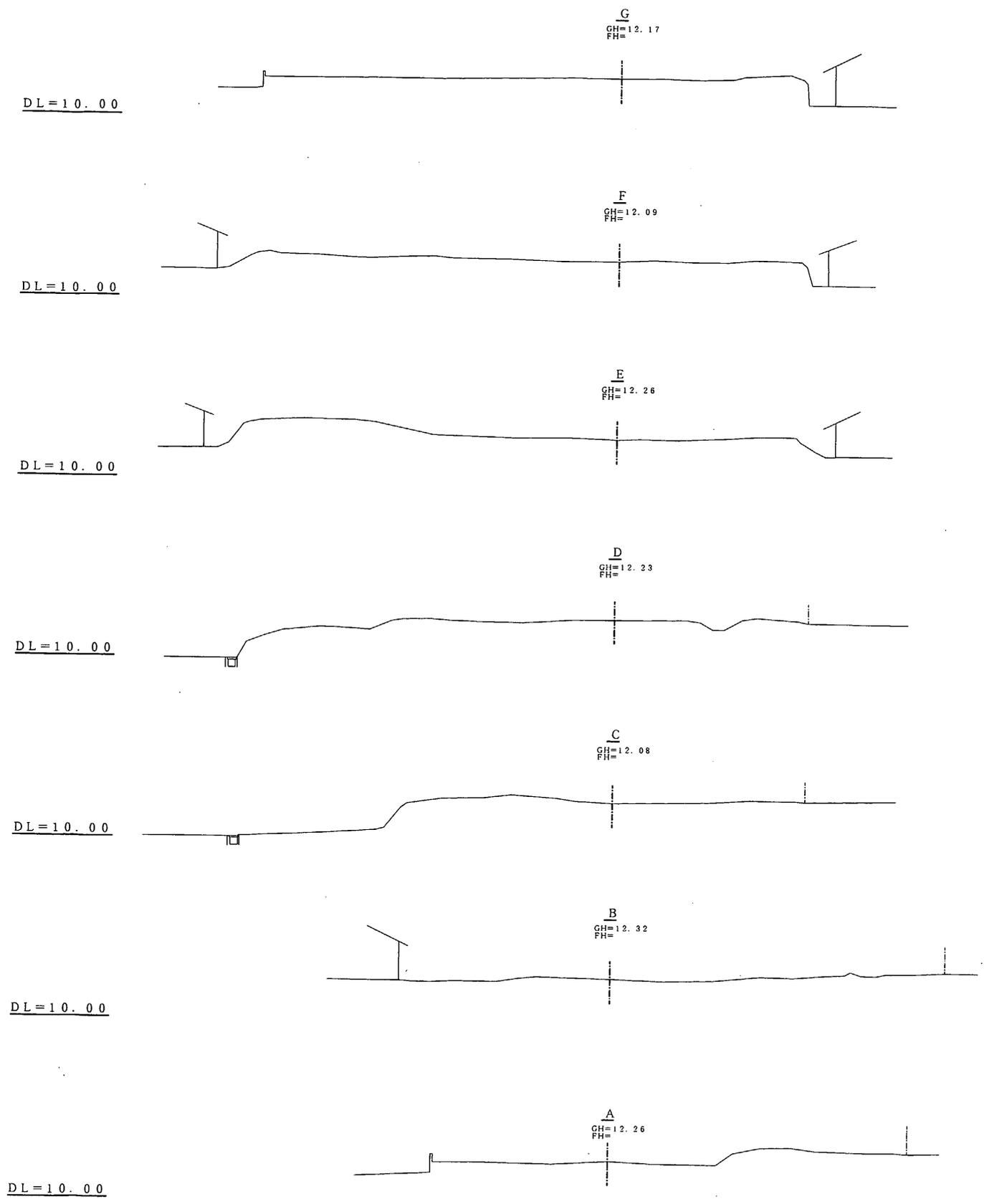


◆計画地の現況調査

- ・ 当計画地の敷地面積は約900m²の方形状の敷地であり、市街地で周辺には民家が張り付いている。
- ・ 計画地と周辺の地盤の比高差が1.0m～2.0m程度ある。
- ・ 敷地面はほぼフラットであるが基壇と推測される南側の一部が1.0m程高くなっている。
- ・ 計画地の北側に市道が東西に走っている。
- ・ 計画地内に保存する樹木は無いが南側の境界外に竹林があり、石碑が1塔、基壇そばに祀られている。

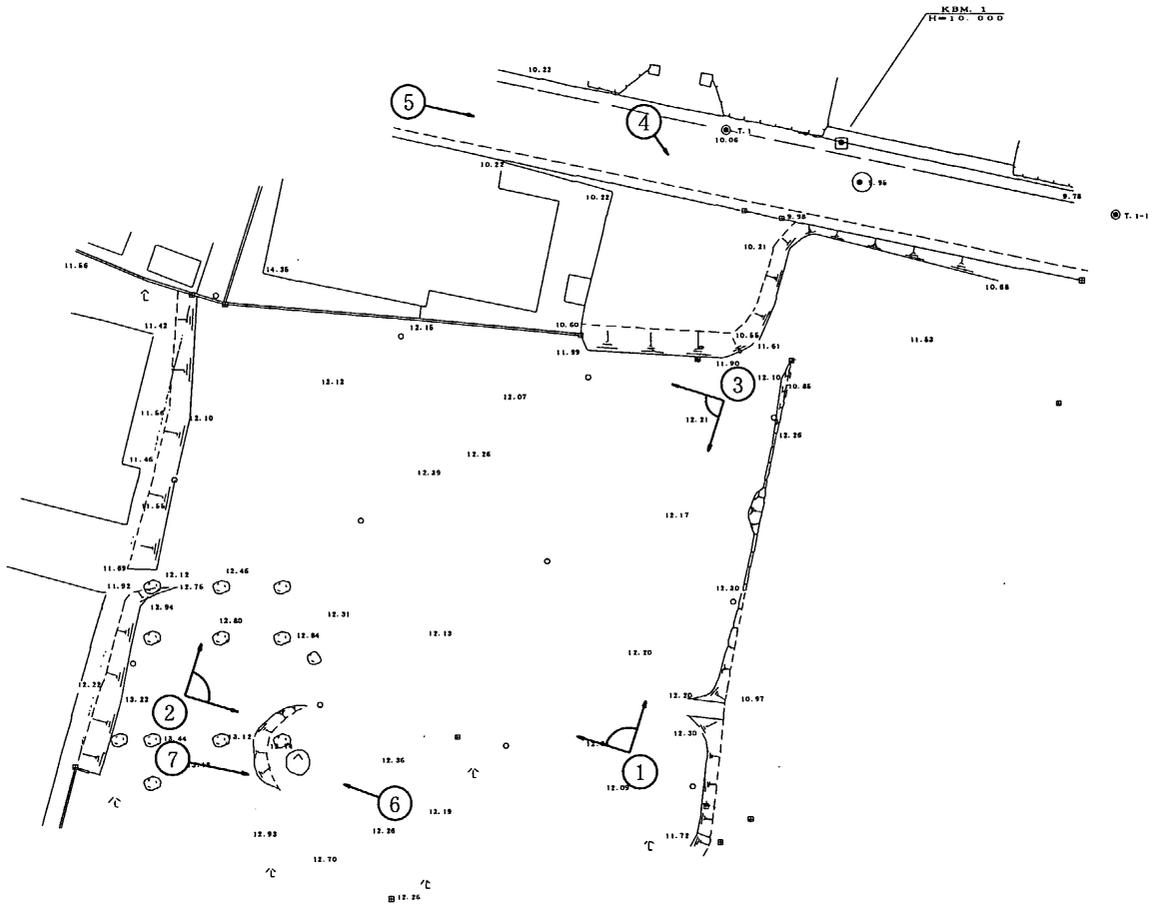
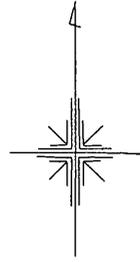
現況横断面図

S = 1 : 300



写真位置図

S=1:400



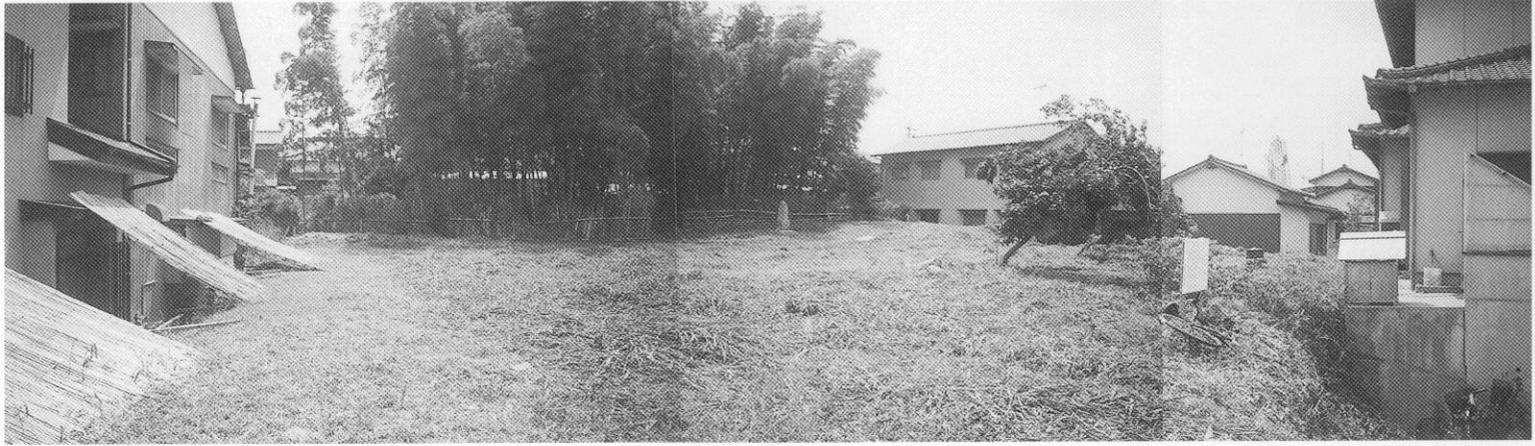
1



2



3



4



5



6



7



◆導線計画

敷地の北側に市道が東西に走っているので市道からのアプローチを計画するが、敷地面積が900㎡程度と狭く他に道路と接していないのでアプローチは市道からの1ヶ所とする。

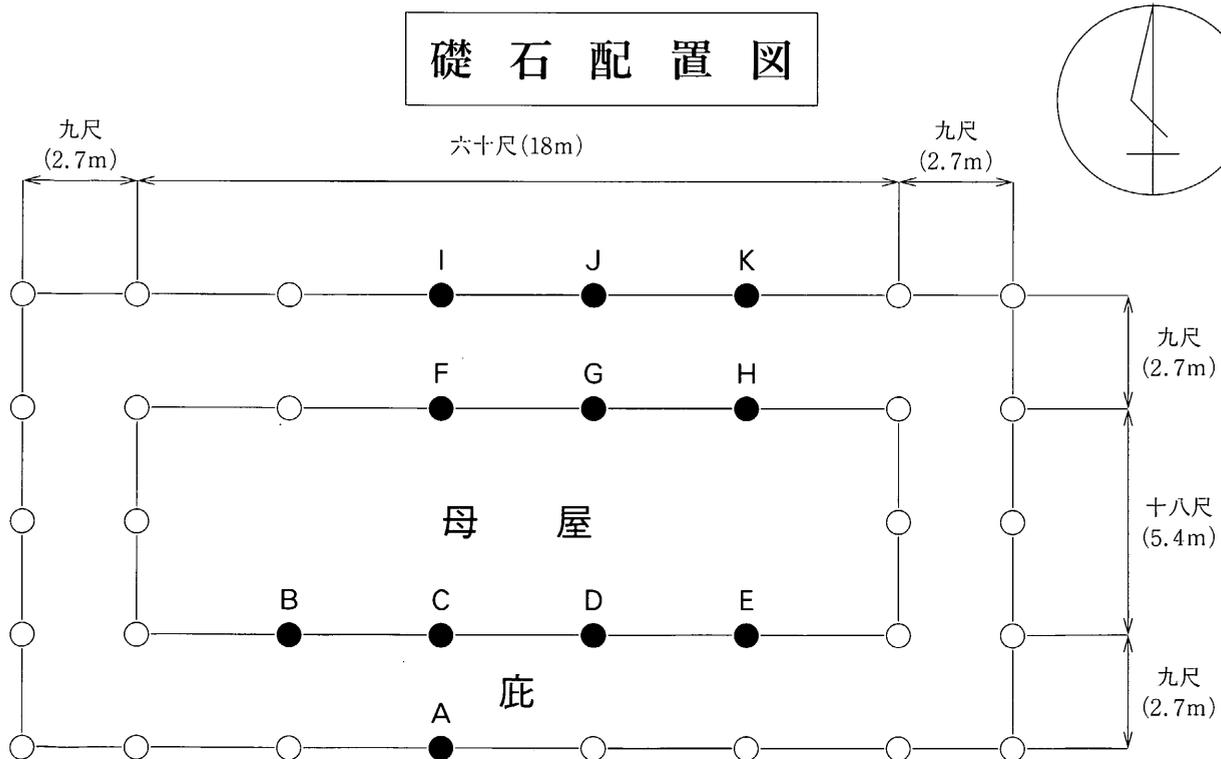
◆造成計画

基壇の計画高は礎石の高さを基準にしてFH=12.8mとして広場の計画高は市道からのアプローチ勾配を身障者対応の8%以下としたFH=11.9mとし、基壇と広場の比高差は0.9m程度とする。また、排水計画は周辺住家に影響がないよう全体的に敷地内側に勾配をとり進入路から市道の側溝に流し込むよう計画する。

◆諸施設計画

①基壇・礎石復元：確認調査や施工中に発見された礎石はA～Hであるが、Bは確認調査後、崖面から転落し原位置を保っていない。また、E、Hも下面の基壇等が流失し、原位置からずれていると考えられる。ほぼ原位置を保っていると考えられるのはA、C、D、F、Gの5石である。I～Kは北側庇部分を復元した礎石で、石材はIが工事中基壇外の埋土から出土した礎石。Kは近隣の民家に置いてあった礎石である。Jは礎石に似た石材を置いた。また、基壇の部分の工事終了後、広場部分の表土除去中に礎石と半欠する大振りの石材が出土した。

基壇はその規模や化粧の有無が不明であるため、復元は復元した礎石の1m外までとした。周囲との比高差は90cm程とし、法面は1割の土羽構造とする。基壇へのアプローチは東側に階段を計画する。また基壇面は当時の素材と管理上を考慮し土系舗装とする。



②進入路：幅員は管理車が通れる幅w=3.0mとし、身障者を考慮し勾配は8%以下で平地部も設ける。表面舗装はインターロッキング舗装として色相は落ち着いたのあるグレー系、並べ型は馬踏張とする。

③管理施設

ア) 石積擁壁：造成面が周辺地盤より1.0m程高く現況が土羽構造となっている東・西部はコンクリートブロック積とし、北側（入り口部）は修景を考慮し宝満石の野面石積とする。

イ) 車止め：施設内への車両進入防止のため車止めを進入路に設置し、管理上2基は可動式とする。車止めの材質は御影石とし、表面処理はビシャン仕上げとする。

ウ) 照明灯：園内防犯灯として入り口部と階段部に2基設置し、管理上周辺への影響を考慮し、タイマー及び自動点滅器を設置する。

④休養施設

東屋：休憩ゾーンに1棟設置し、デザイン・素材は落ち着いたある和風・木製にする。東屋中央に縁台を設置する。

⑤植栽計画：植栽樹木は開花時期を考慮し、花木や紅葉により四季感を感じるよう配植する。また、樹木は在来種に限定した。

民家が隣接する北・西側は生け垣で目隠する。

開花時期一覧表

種類	名称	花色	開花時期											
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
高木 常緑	クロガネモチ	赤い実												
〃 〃	ヤブツバキ	赤												
〃 〃	サザンカ	桃												
高木 落葉	ヤマザクラ	桃												
〃 〃	ヤマモミジ	紅葉												
〃 〃	ケヤキ	紅葉												
〃 〃	ウメ	白												
中木 常緑	ヒラギモクセイ													
低木 常緑	サツキツツジ	赤												
〃 〃	ヒラドツツジ	白、桃、紫、緋赤												
低木 落葉	ガクアジサイ	紫												
地被類 常緑性	クマザサ													



(ウメ)



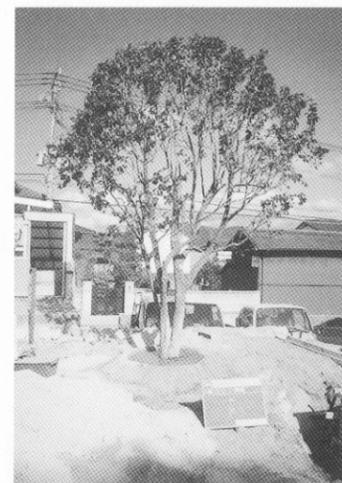
(ケヤキ)



(クロガネモチ)



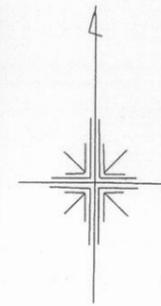
(ヤマザクラ)



(ヤブツバキ)



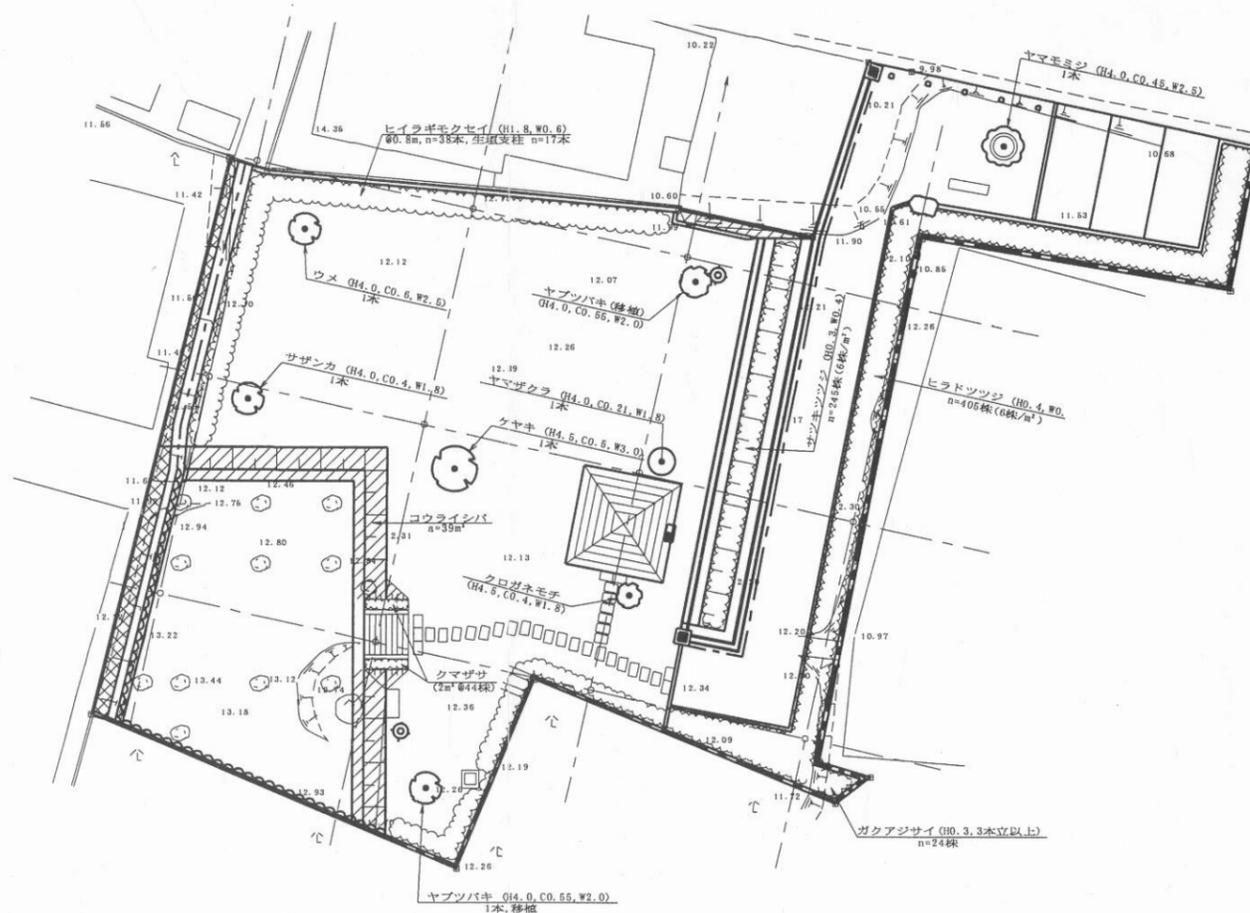
(ヤマモミジ)



(サザンカ)

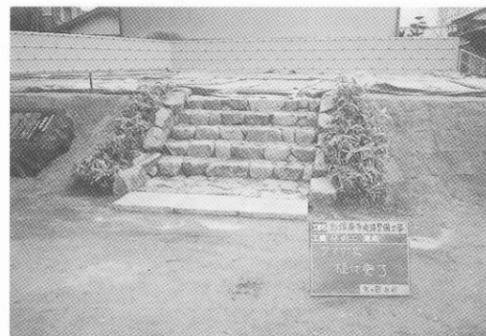


(ヒラギモクセイ)



凡例 (植栽計画)

記号	名称	形状・寸法			単位	数量	備考
		H	C	W			
⊙	ヤマザクラ	4.0	0.21	1.8	本	1	二脚島居支柱
⊙	ケヤキ	4.5	0.5	3.0	#	1	三脚島居支柱
⊙	ヤブツバキ(移動)	4.0	0.55	2.0	#	2	-
⊙	クロガネモチ	4.5	0.4	1.8	#	1	三脚島居支柱
⊙	サザンカ	4.0	0.4	1.8	#	1	#
⊙	ヤマモミジ	4.0	0.45	2.5	#	1	#
⊙	ウメ	4.0	0.6	2.5	#	1	#
⊙	ヒラギモクセイ	1.8	-	0.6	#	38	生垣支柱
⊙	ガクアジサイ	0.3	3本立以上		株	24	
⊙	クマザサ				m ²	2	44株/m ²
⊙	ヒラドツツジ	0.4	-	0.4	本	405	6株/m ²
⊙	サツキツツジ	0.3	-	0.4	#	245	#
⊙	コウライシバ	-	-	-	m ²	39	



(クマザサ)



(ガクアジサイ)



(サツキツツジ)



(ヒラドツツジ)

凡例 (施設計画)

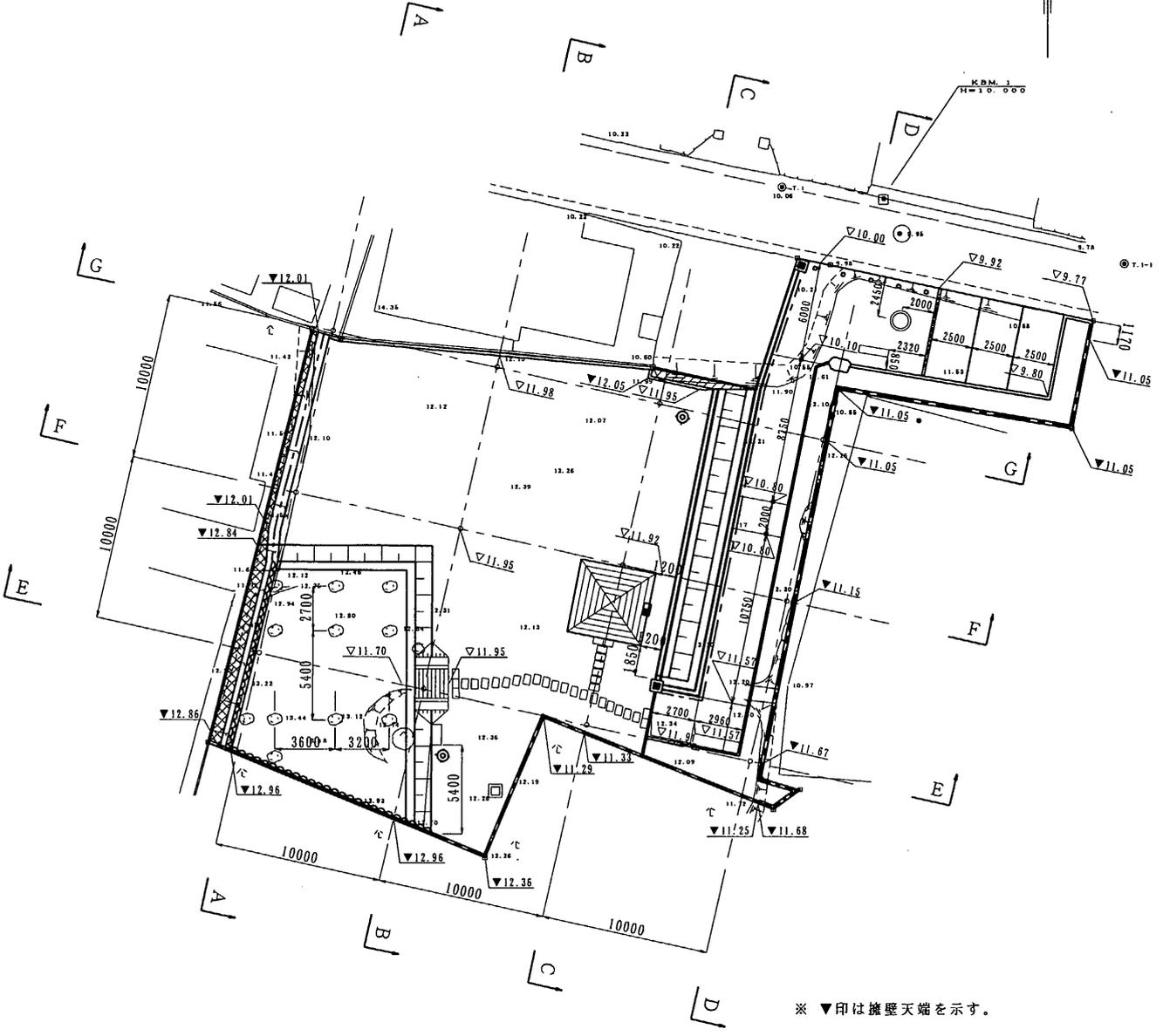
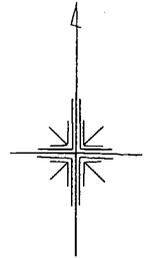
記号	名称	規格	単位	数量	備考
	1号重力式擁壁		m	32	
	2号重力式擁壁		"	18	
	コンクリートブロック積	控35cm 布積	m ²	26	
	自然石練積	宝満石φ300~400内外	"	11	
	インターロッキング舗装		m ²	133	
	基壇舗装	ソイルサンド	"	128	
	駐車場舗装	アスファルト	"	38	
	緑石(1)	120×200×600	m	31	コンクリート製品
	緑石(2)	120×120×600	"	8	"
	緑石(3)	180/205×250×600	"	37	"
	緑石(4)	120×120 R物	"	3	自然石
	コンクリート削孔	φ60, L=200	孔	10	
	区画線	w=15cm	m	10	
	自然石階段	W=1.8m	基	1	
	東屋(緑台付)	760×2,180×400/700	棟	1	
	園銘板		基	1	
	プラ建仁寺垣工	H=1.2	m	24	
	礎石	移設	基	6	
	水飲み工		"	1	
	自然石説明板		"	1	
	石碑	移設	"	1	
	竹根防止壁工		m	34	
	自然石平板飛石	400×600×60 内外	枚	32	
	車止め	可動式 250×250×700	基	2	
	車止め	固定式 250×250×670	"	3	
	フェンス(H=0.9m)		m	114	
	手摺ステンレス	H=0.8m	"	30	
	真砂土舗装		m ²	380	
	パンチ		基	1	

施設整備のポイント

- ① 基壇西側の土留擁壁タイプとしてブロック積擁壁とL型擁壁の比較を行い、L型擁壁は直壁のため基壇面積を多くとれるが施工上基壇に対する影響が多いため不採用となりブロック積を採用。
- ② 現況南側は竹林となっている為、竹根防止としてコンクリート壁を施工。
- ③ 基壇へ上がる階段は歩行の安全性、施工性を考慮し切石としていたが当時の条件を重視し、宝満石の野面階段にする。
- ④ アプローチの整備はハンディーキャプトへの対応として勾配(8%以下)ステンレス手摺の設置を行う。舗装材は、当初石張を計画していたが予算上の問題でインターロッキングとなり色相(グレー系)貼方(馬踏張)は全体施設上、調和のとれたものとする。
- ⑤ 照明灯は、周辺住民の対応を考慮し自動点灯・タイマー併用とする。

造成計画平面図

S=1/400



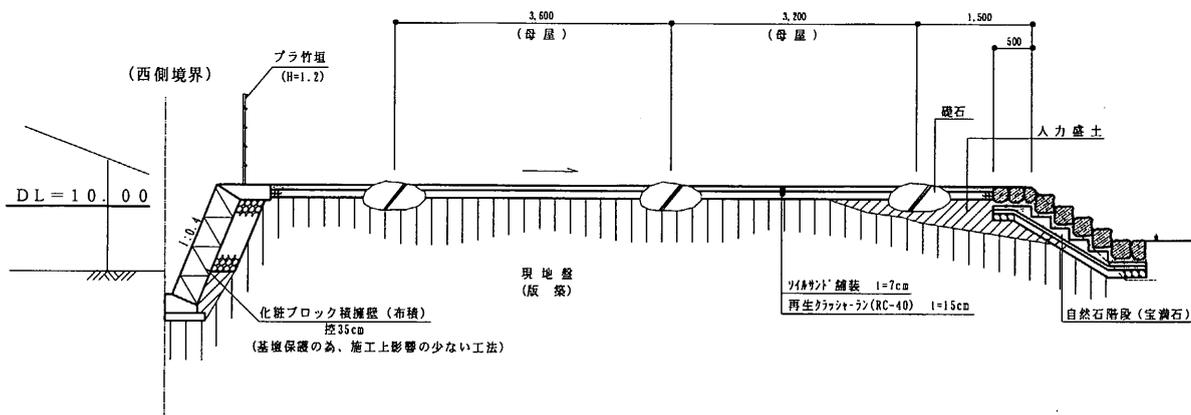
施工中の基壇整備のポイント

- ① A礎石が工事作業中に発見され、母屋と庇の位置関係を明確にすることができ、北側に底部の礎石復元を行うことができた。
- ② ①の理由により広場面積が当初より狭くなっている。
- ③ 基壇面の整備は、基壇保護ができ簡単な管理と修景を考慮した素材で土系（ソイルサンド）を採用する。施工が2日間にわたった為、若干の色むらが発生した。
- ④ 基壇積土は、版築となっているので施工中は十分な配慮を行い、新規の施工は人力施工とした。

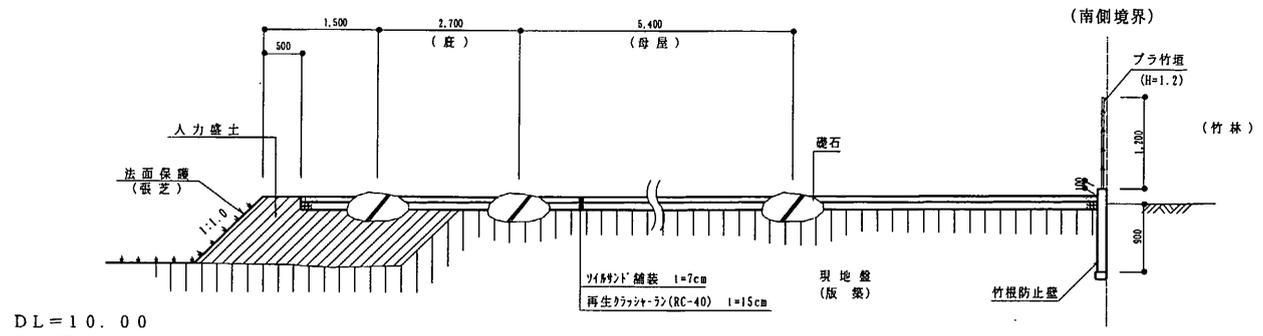
標準断面図

S = 1/100

1 - 1 断面 (基壇部)



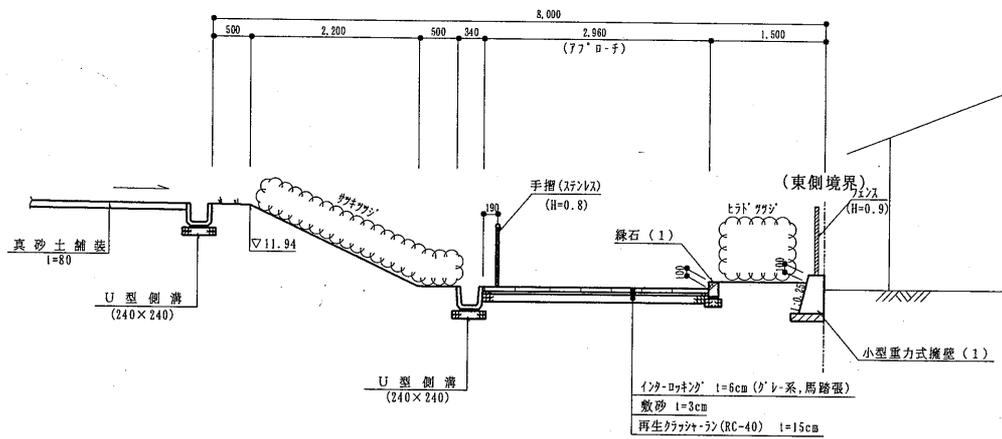
2 - 2 断面 (基壇部)



3 - 3 断面

(アプローチ部)

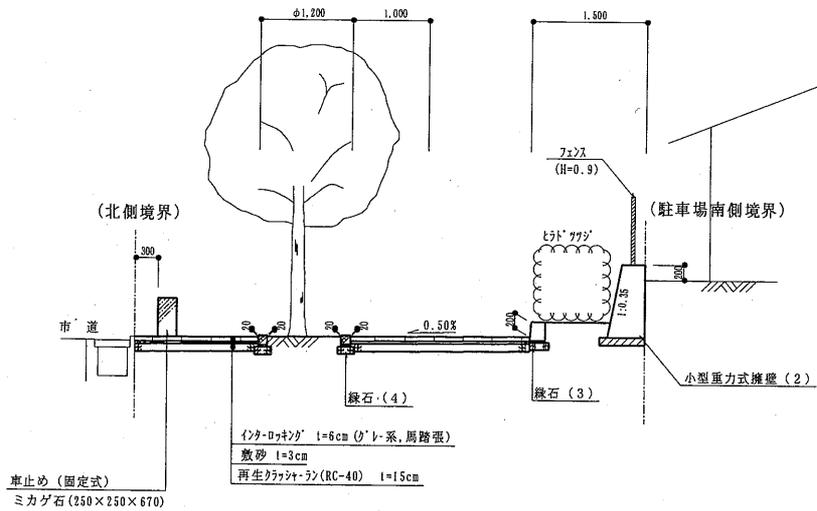
DL = 10.00



4 - 4 断面

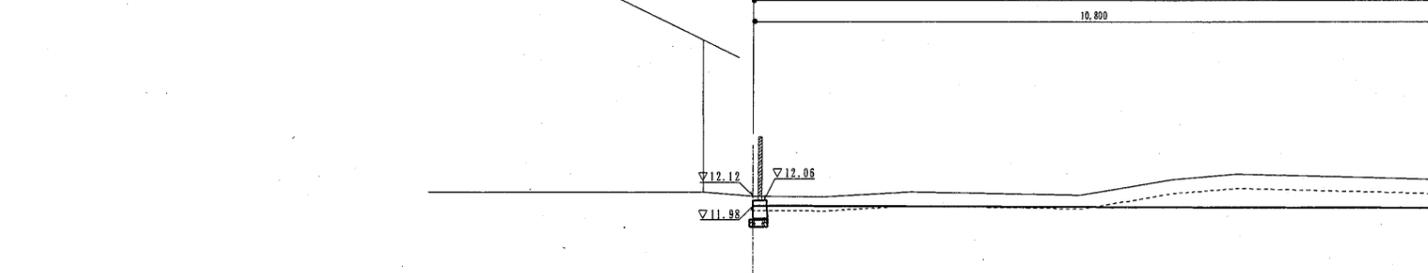
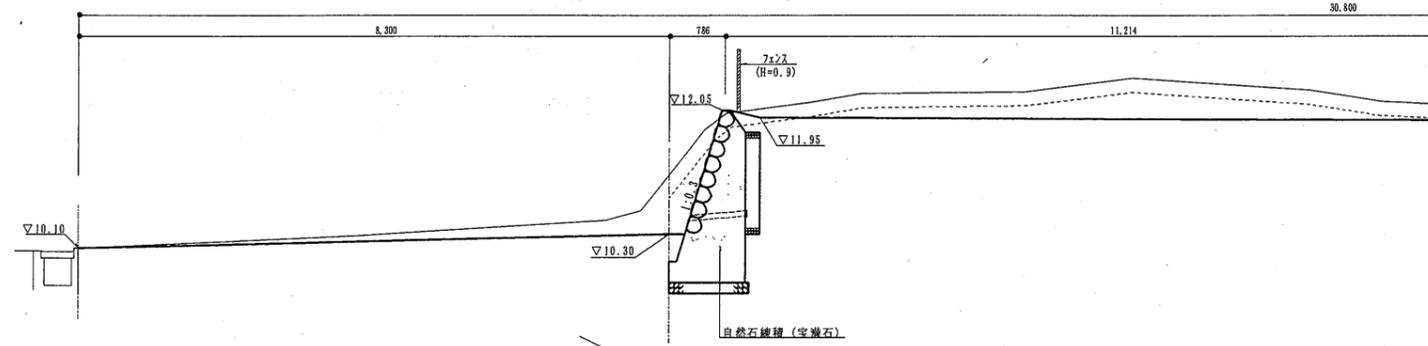
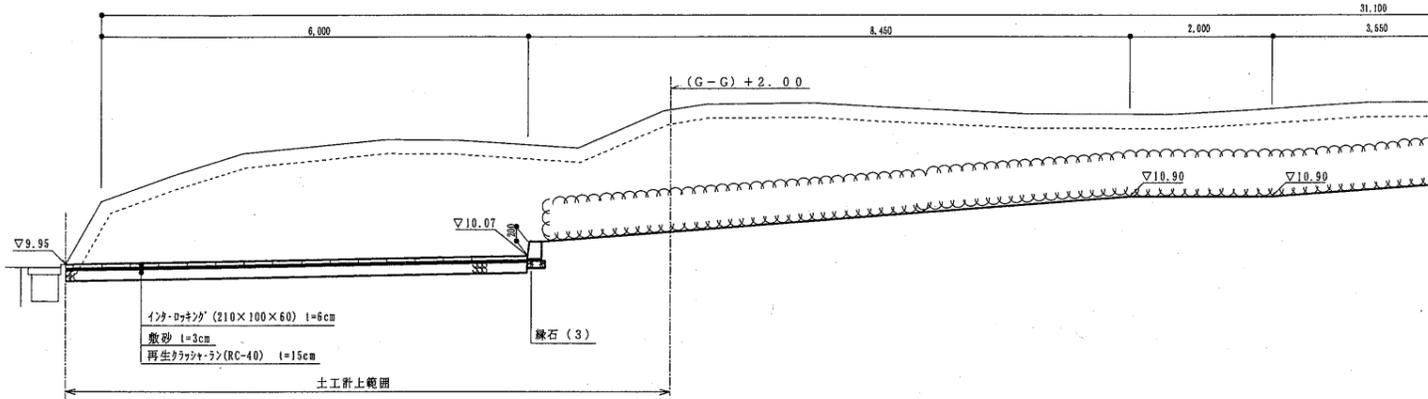
(エントランス部)

DL = 10.00



横断図 (1/2)

S=1/100



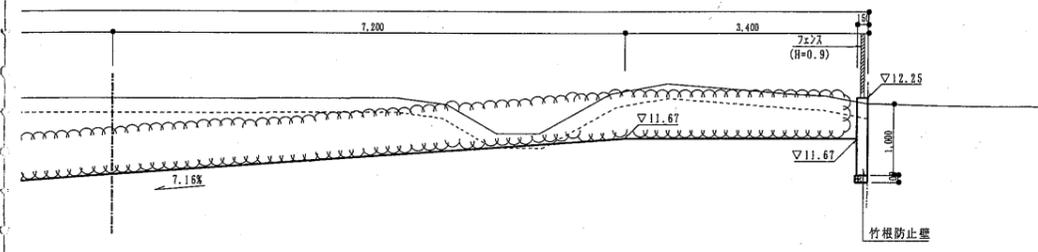
DL=10.00

DL=10.00

D-D断面

GH=12.23
FH=11.15

種別	単位	数量
掘削	m ²	13.6
盛土	#	0

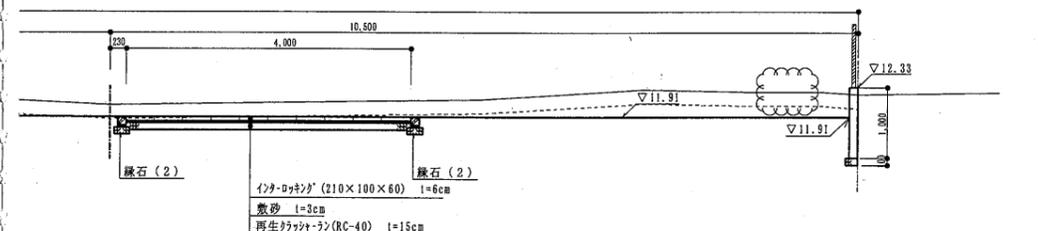


DL=10.00

C-C断面

GH=12.08
FH=11.92

種別	単位	数量
掘削	m ²	8.4
盛土	#	0

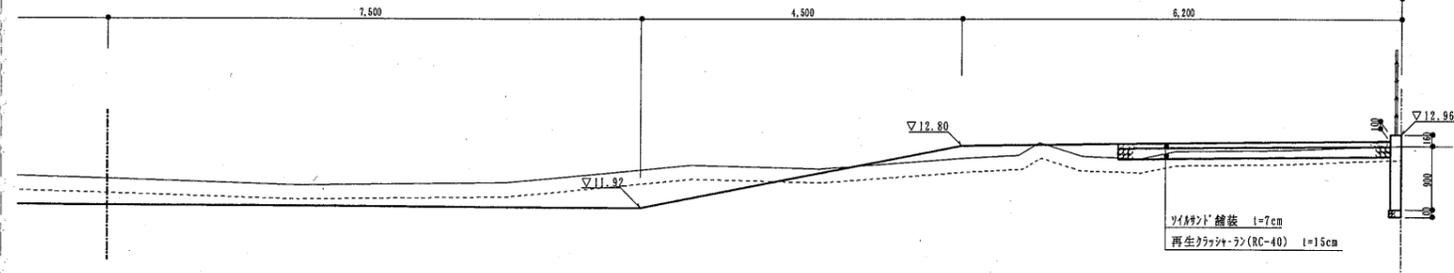


DL=10.00

B-B断面

GH=12.32
FH=11.95

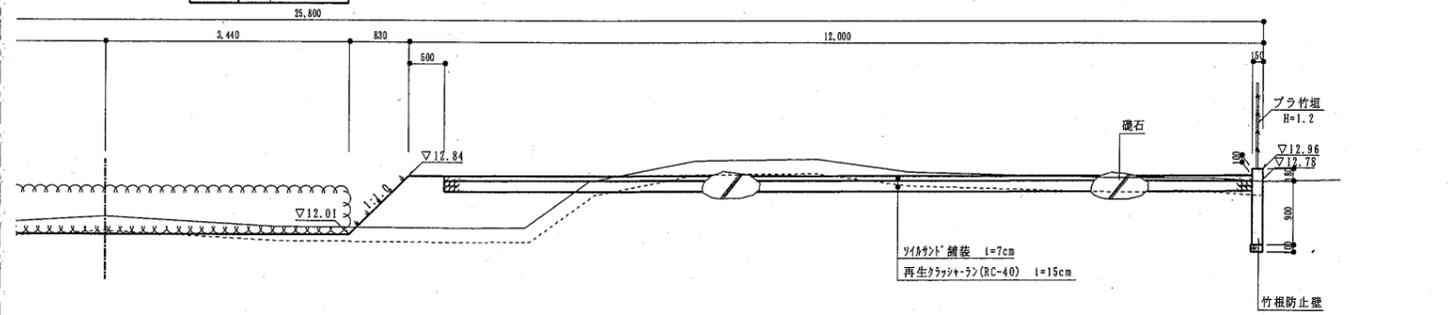
種別	単位	数量
掘削	m ²	7.0
盛土	#	0



A-A断面

GH=12.26
FH=12.01

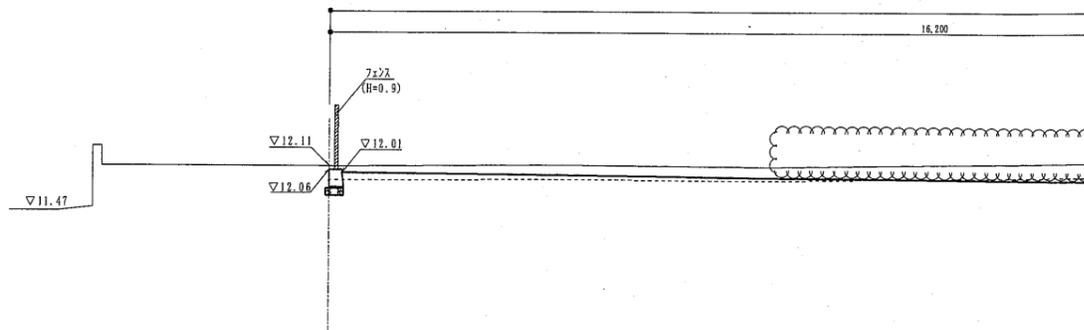
種別	単位	数量
掘削	m ²	4.4
盛土	#	1.3



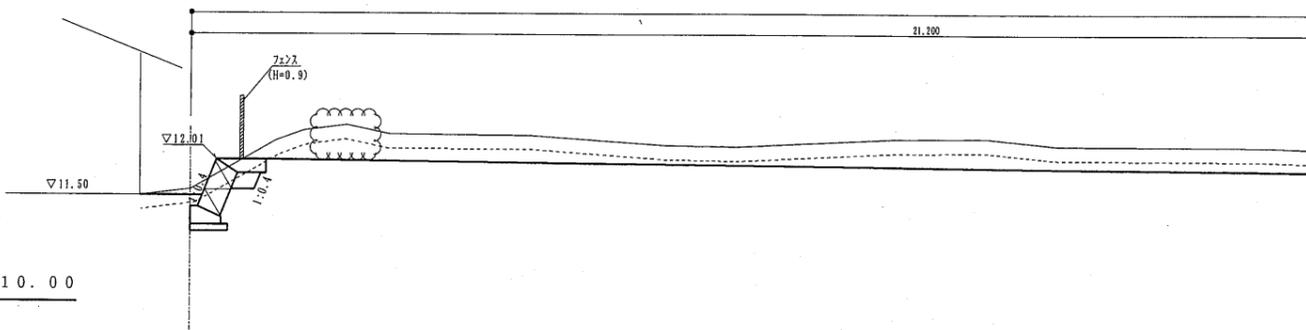
横断図 (2/2)

S=1/100

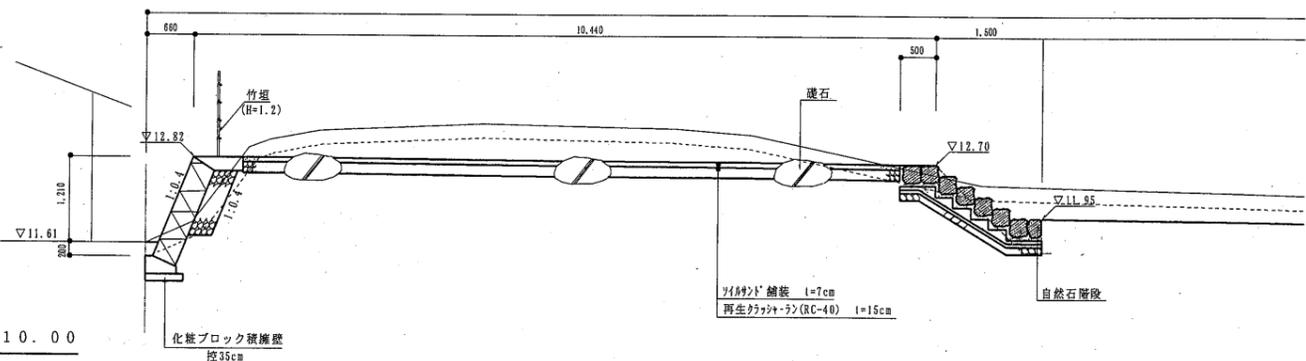
DL=10.00



DL=10.00

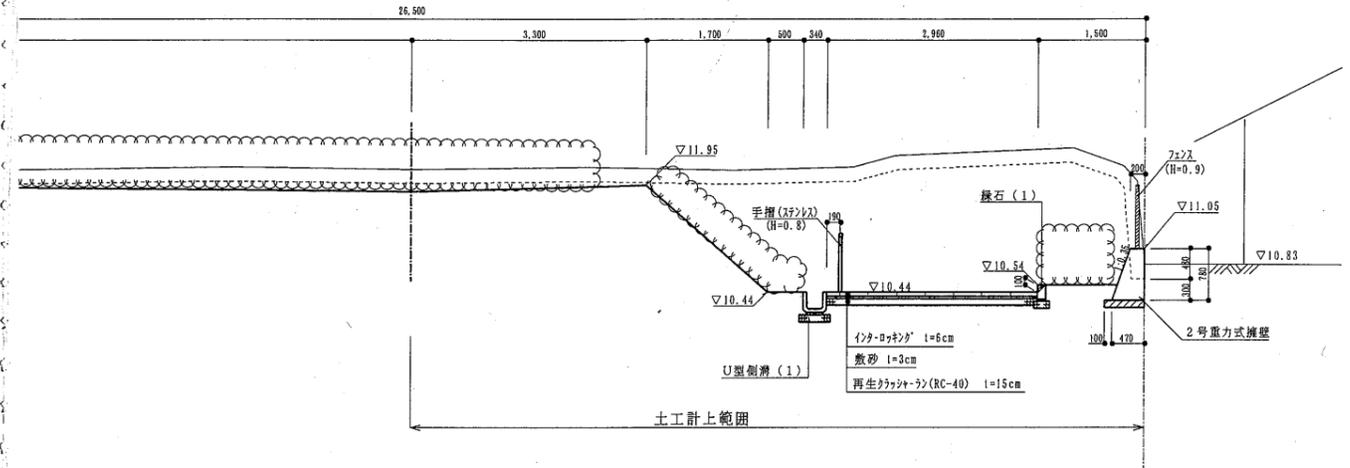


DL=10.00



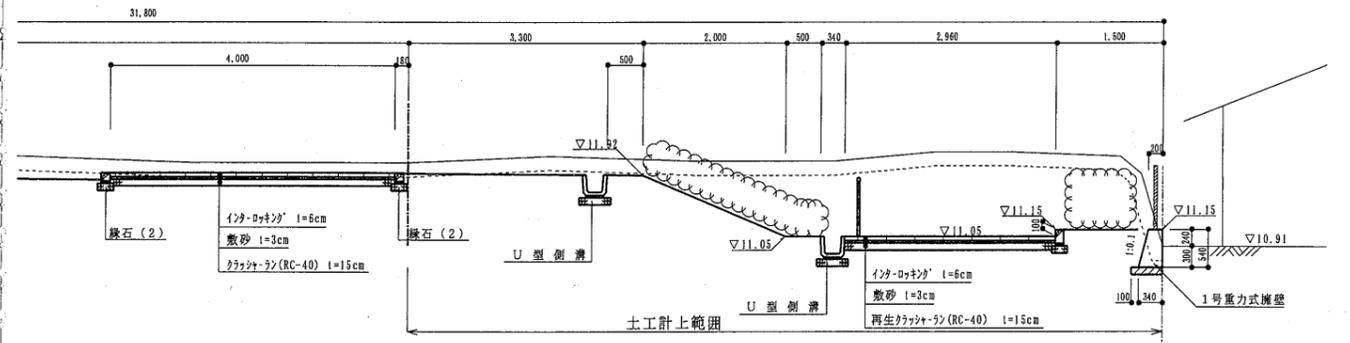
G-G断面
GH=12.17
FH=11.85

種別	単位	数量
掘削	m ³	13.0
盛土	m ³	-



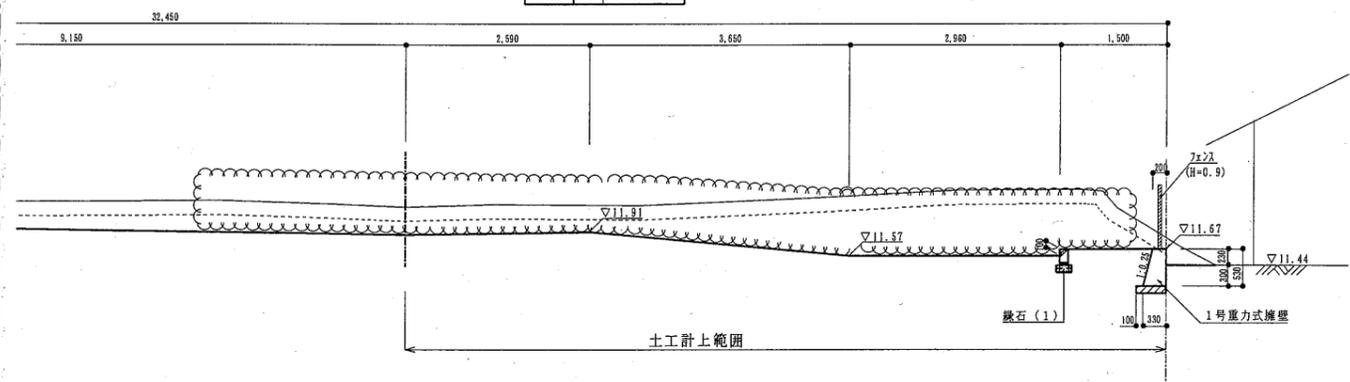
F-F断面
GH=12.09
FH=11.97

種別	単位	数量
掘削	m ³	8.8
盛土	m ³	-



E-E断面
GH=12.26
FH=11.87

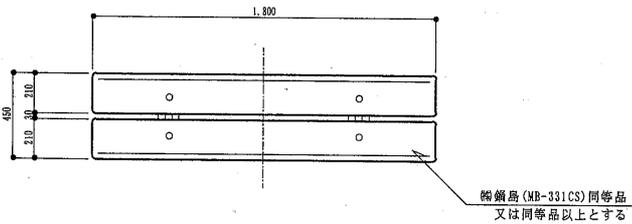
種別	単位	数量
掘削	m ³	7.0
盛土	m ³	-



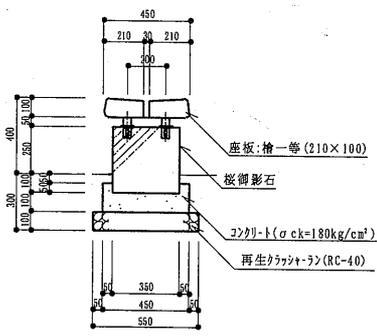
木製ベンチ

S=1:40

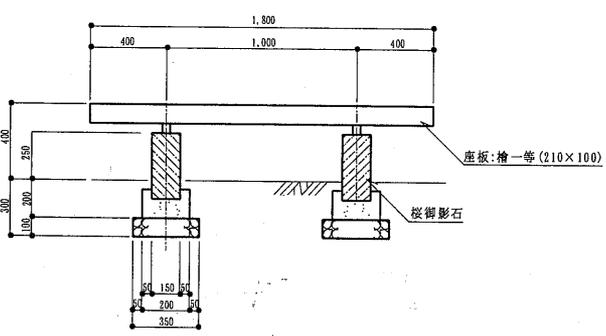
平面図



側面図



正面図

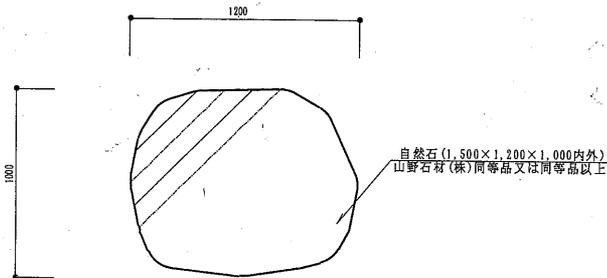


園銘板

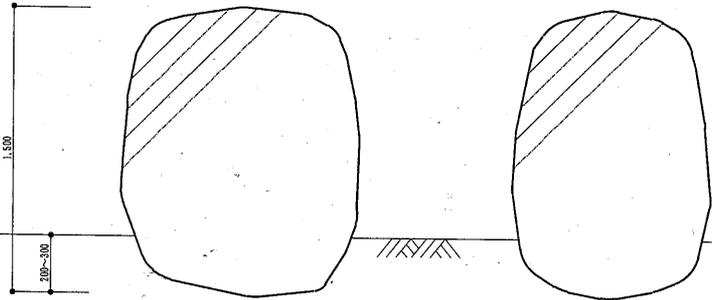
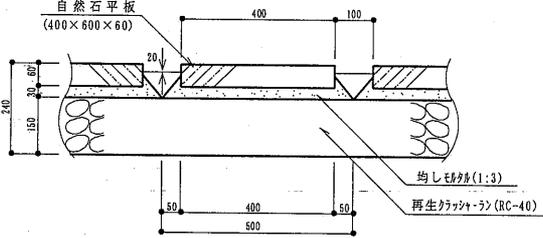
S=1:40

自然石平板飛石

S=1:20



平面図

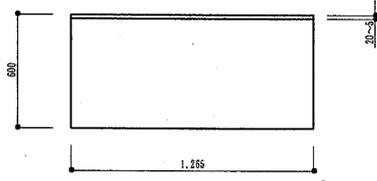


立面図

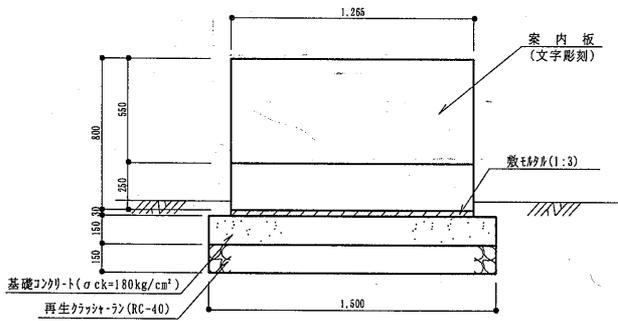
側面図

案内板(自然石)

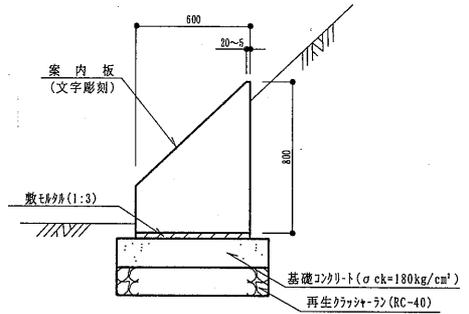
S=1:40



平面図



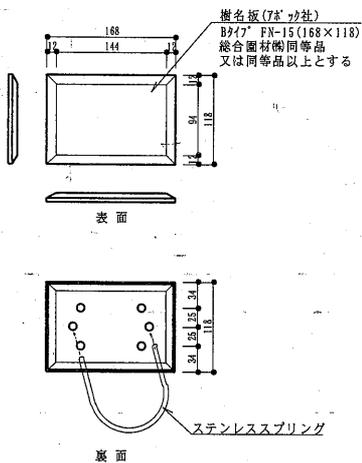
立面図



側面図

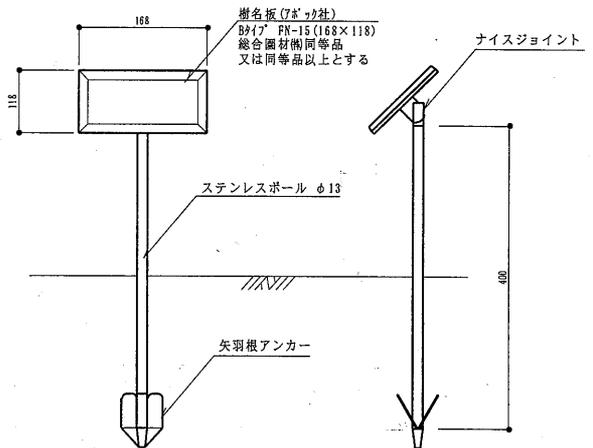
樹名板 (スプリング式)

S=1:10



樹名板 (ポール式)

S=1:10

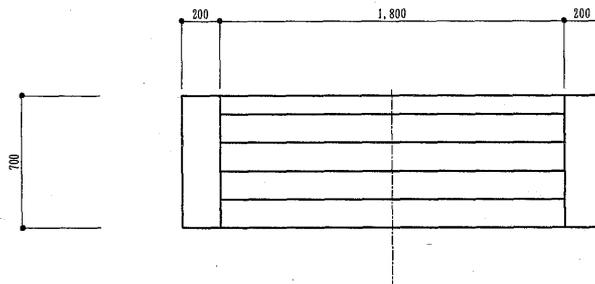


正面図

側面図

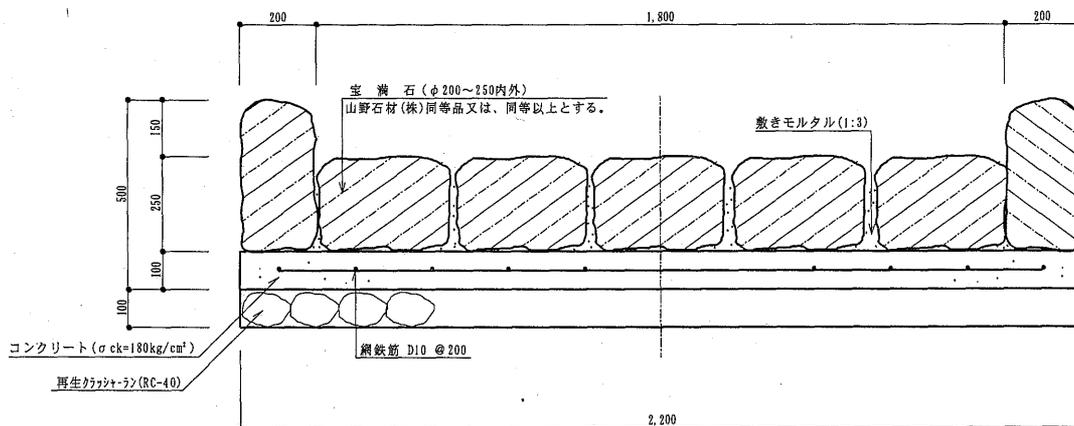
自然石階段工詳細図

正面図 S = 1 : 40

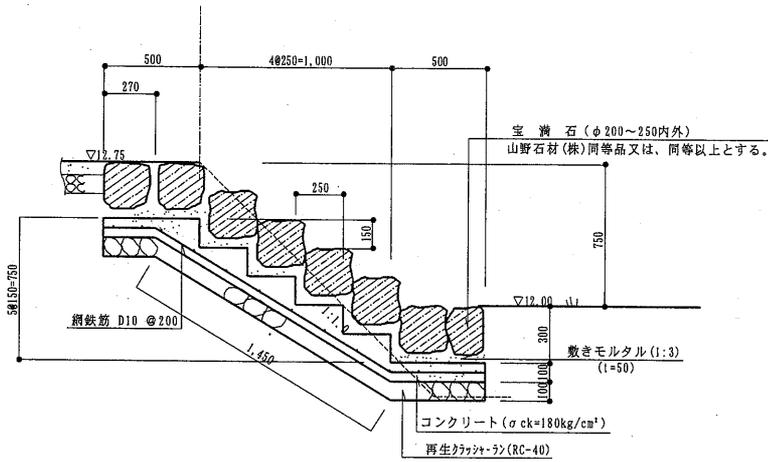


袖石詳細図 S = 1 : 20

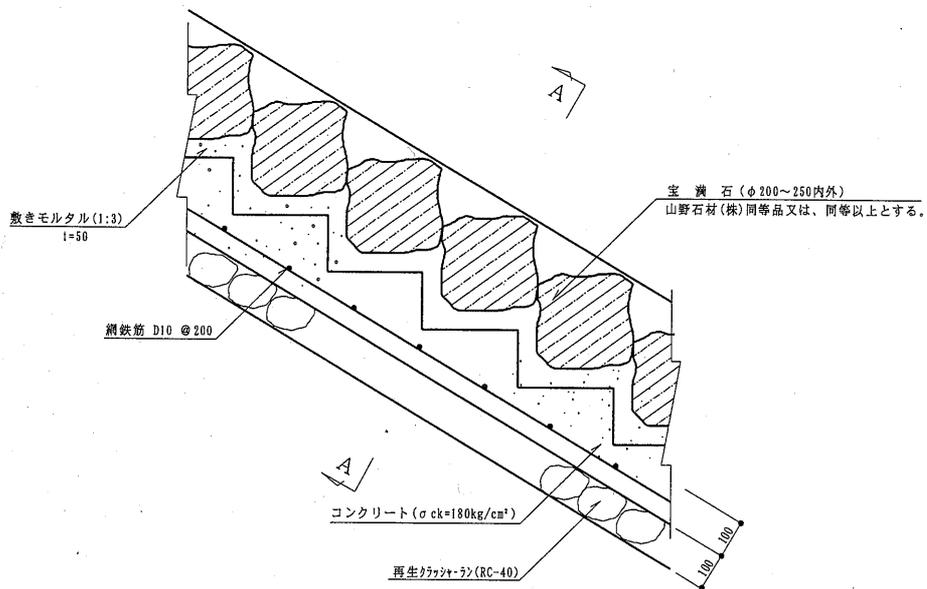
(A-A断面)



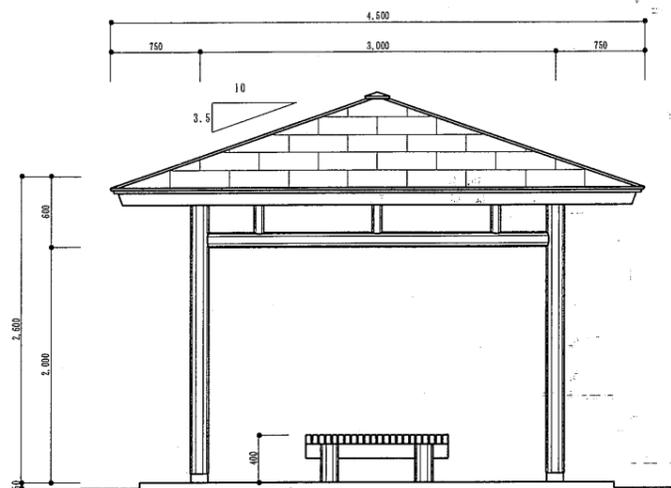
側面図 S = 1 : 40



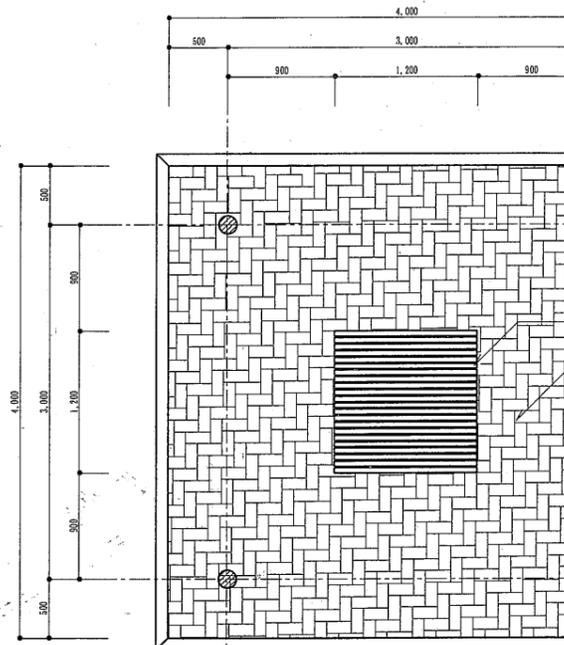
宝満石詳細図 S = 1 : 20



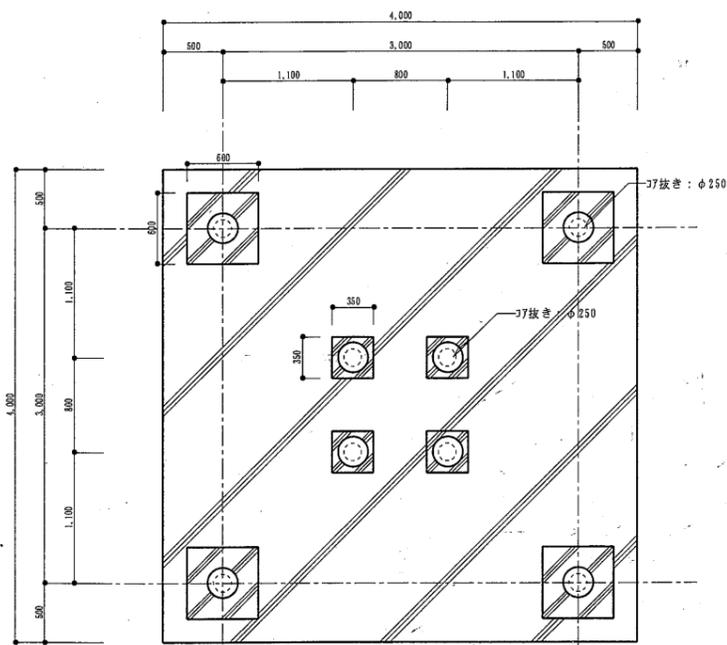
東屋工詳細図



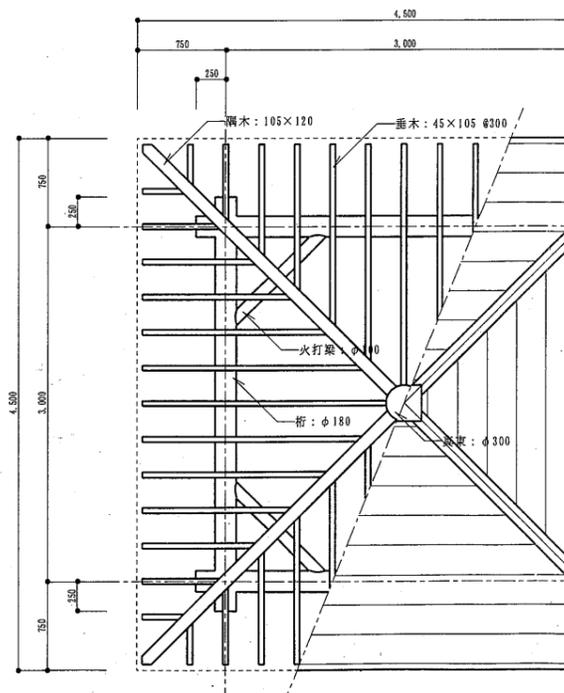
立面図 S=1:60



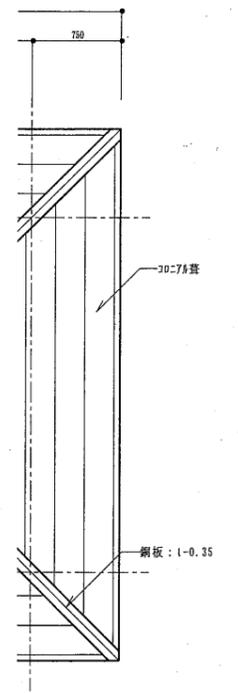
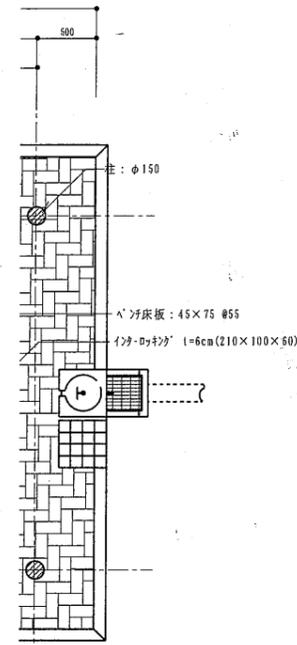
平面図 S=1:60



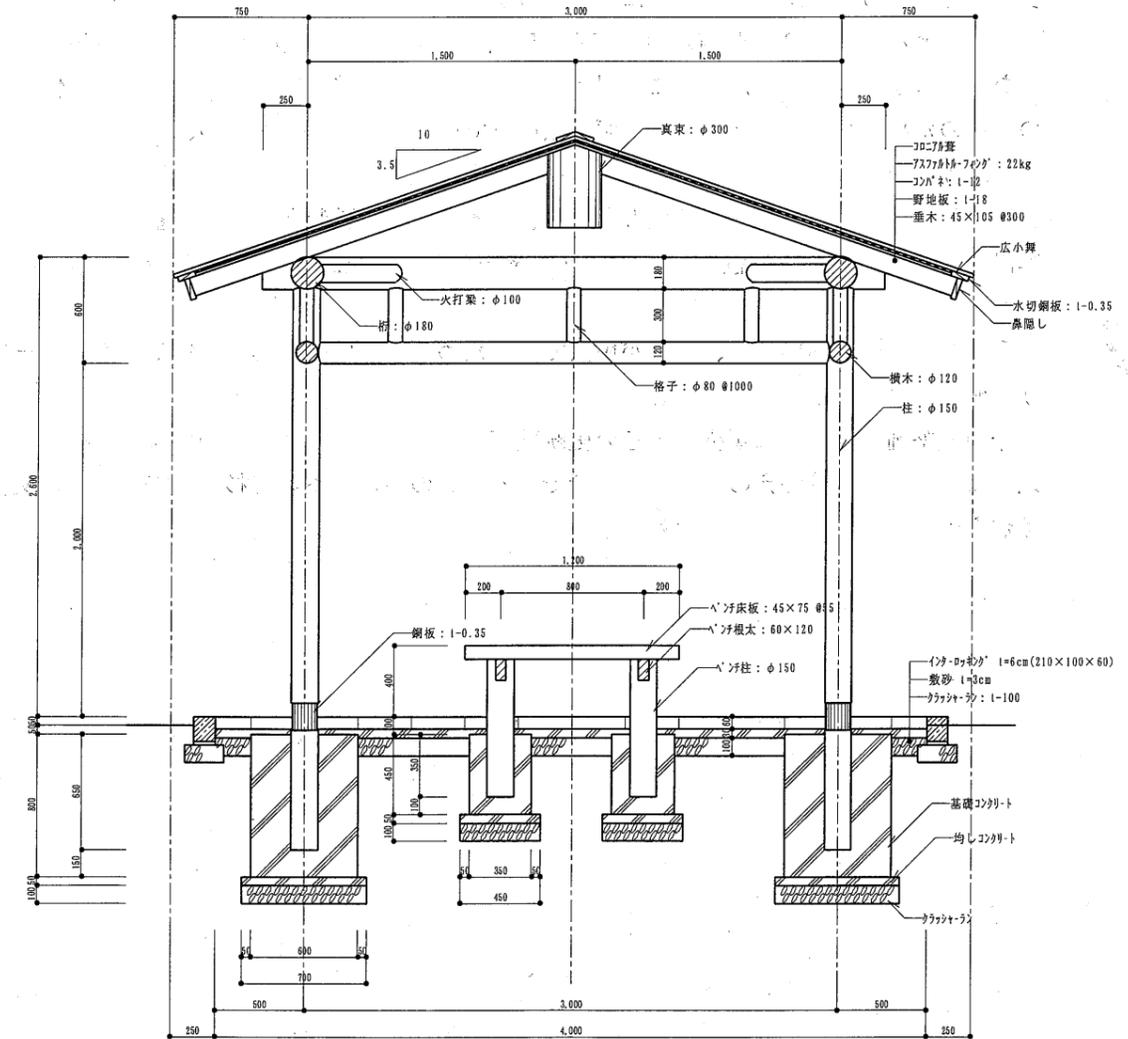
基礎伏図 S=1:60



小屋伏図 S=1:60 屋根伏図



特記事項
 ※樹種は、杉1等材とする。
 ※防腐防蟻加工はすべてレザックとしJAS指定工場で処理する事とする。
 ※金具は溶融亜鉛メッキ処理とする。



矩形図 S=1:40

V ま と め

杉塚廃寺は周辺の宅地化が著しく、僅かに今回整備した部分が残るのみである。これまでの調査や近隣の民家に保存されている資料から、7世紀末から8世紀初頭に建立されたと推定される。伽藍は明らかでないが、仮に法隆寺式を想定した場合昭和48年度に発見された建物が中門、本整備地の建物が金堂に当てはめることも可能である。

今回の整備に当っては昭和54年度の調査に加え、さらに南側に礎石が検出されたことから建物の様相が若干ではあるが明らかとなった。建物は東西棟で、母屋は桁行5間以上（柱間寸法12尺）、梁行2間（柱間寸法9尺）で、四面庇がつくと考えられる。

整備に当っては礎石が花崗岩で劣化に強い点や、実物がもつ教育的効果から、現存する礎石を実物展示することとした。礎石は原位置を保つものを基準とし、ずれている礎石は据えなおすとともに、北側の3石については、建物の梁間を示すために復元した。

基壇は、その大半が失われ、その規模や基壇化粧については不明である。また、整備地内に広場を確保する必要から、基本的に礎石から1mまでとした。ただし、南側は礎石の端が隣地との境界となっており、西側についても1.5m程の崖を呈して、境界となっていることから必要な奥行きが取れなかった。特に西端は礎石が境界部に位置すること、また、法面保護のための擁壁のため、内側に据えざるをえず、原位置では無いことを示すため、礎石の上面を他より10cm上げている。

基壇面の保護は、整備後の管理も考慮し、ソイルサンド舗装としたが、基壇の保護と礎石の露出を確保するため、路盤は再生クラッシャーラン $t=15\text{cm}$ 、ソイルサンド舗装 $t=7\text{cm}$ とした。

その他の整備においては、周囲が民家であるため、夜間照明器具の位置は、タイマーは元より、樹木でカバーするよう配慮した。

今回の整備は、非常に規模の小さい史跡整備であるが、大宰府関連の史跡であるとともに、地元にとってはかけがえのない文化遺産である。この地域において杉塚廃寺が地域の文化にかけがえのないものとなるよう望みたい。

圖 版



全体竣工写真



※ 手前左端の礎石は仮置き。

礎石検出状況（西より）



※ 左、奥の礎石は仮置き。

礎石検出状況（東より）



土系舗装施工時



完了時

基壇施工



土羽(張芝)完了時

礎石据付施工



据付完了時



施工時





完了時



施工時



駐車場(アスファルト舗装)完了時

進入路(インターロッキング舗装)施工



車止(御影石)完了時



広場(真砂土)舗装完了時



施工時



コンクリートブロック積完了時



宝満石（野面）石積



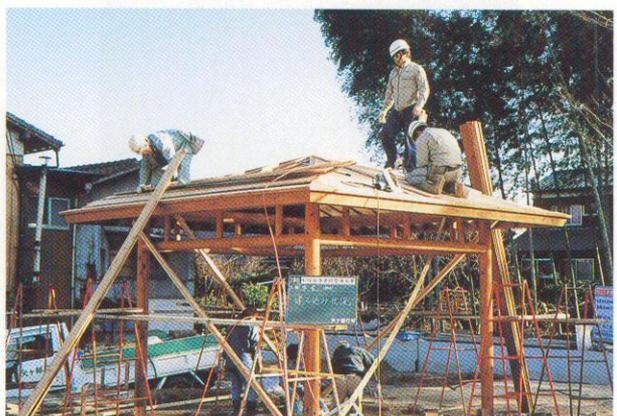
宝満石石段完了時



東屋完了時



施工時



施工時



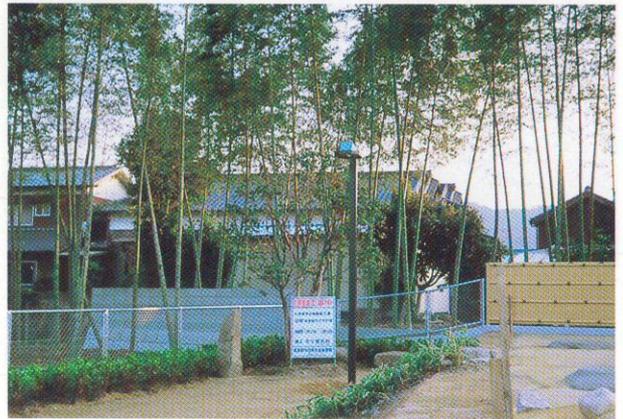
説明板（御影石）完了時



飛石（御影石）完了時



水飲（御影石）完了時



外灯完了時



祀石据付時



基壇プラ竹垣工完了時

報告書抄録

ふりがな	しせき すぎづか はいじ							
書名	史跡 杉塚 廃寺							
副書名	史跡整備報告書							
巻次								
シリーズ名	筑紫野市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第63集							
編集者名	奥村俊久							
編集	筑紫野市教育委員会							
所在地	〒818-8686 福岡県筑紫野市大字二日市753-1 TEL 092 (923) 1111(代)							
発行年月日	西暦2000年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °、”	東経 °、”	調査 期間	調査 面積 (m ²)	調査 原因
		市町村	遺跡 番号					
すぎづかはいじ 杉塚廃寺	ふくおかけんちくしのし 福岡県筑紫野市 おおあざすぎづか 大字杉塚	170		33度 29分 46秒	130度 30分 21秒			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
杉塚廃寺	寺院跡	奈良時代	基壇 礎石		瓦片 須恵器片 土師器片			

史跡 杉塚廃寺

史跡整備報告書

筑紫野市文化財調査報告書

第63集

平成12年3月31日

発行 筑紫野市教育委員会

〒818-8686 福岡県筑紫野市大字二日市753-1

TEL 092-923-1111(代)

FAX 092-923-9644

印刷 大同印刷株式会社

〒840-0815 佐賀市天神一丁目1番32号

TEL 0952-24-8450(代)

FAX 0952-28-5583

URL <http://www.daidou-jp.com/>